

月影



第78号

令和六年九月一日発行
浄土宗西山禅林寺派

常林院



思うようには
ならないもの



晴れを願っても

雨は降り

健康を願っても

病気になる

一緒にいたくても

必ず別れはやって来る

すべてのことは

自分の想いではなく

縁によって起こる

開宗八五〇年

法然上人の生涯



【十五】

念仏を説く



遊女を救う

多くの弟子たちに見送られ京を発った法然上人は、鳥羽から船で淀川を下り、瀬戸内海に出て四国へと向かった。

四国へ向かう途中、法然上人は、ゆく先々で念仏の教えを説いていかれた。

高砂では漁師の老夫婦が、

「仕事から魚を殺生する

ことを日々重ねてきた私たちは地獄へ墮ちるのでしょうか？」

との問いに、

「念仏を称えれば極楽へ往生できます」

と答えられ、老夫婦を安心させられた。

また、室の泊では、

遊女が船で法然上人の船に近づき、

「罪深き私が救われる道はあるのでしょうか」

と尋ねました。法然上人は、

「もし遊女をやめて生きていくことができるのであれば、その仕事をやめなさい。しかし、仕事を

やめるのが無理なら、た

だ念仏すればよい。必ず往生できます」

と説かれました。遊女は感激し、法然上人に帰依しました。



四国

三月末頃には四国に到着し、小松庄（香川県仲多度郡まんのう町）にある生福寺に落ち着くことになりました。地元の人々は、法然上人の噂を聞きつけ、行列ができる

ほど歓迎されました。

しかし、半年後、法然上人の流罪が許されることになり、生福寺での生活は終わりを迎えることになりました。

法然上人の赦免は、もともと朝廷内での支持が厚かったことと、後鳥羽上皇が不吉な夢をみたことがきっかけになったと言われています。

法然上人は、帰路も往路と同じルートを選び、自ら念仏の教えを広めた場所を再び訪ねて回りました。（つづく）



仏事と

作法

開宗八五〇年



今年、法然上人が浄土宗を開かれて八五〇年の記念の年です。

四月二十一日から二十七日の一週間。総本山永観堂禅林寺において、法



然上人立教開宗八五〇年慶讃法要が厳修されました。

この法要は、法然上人が浄土宗を開かれて八五〇年の節目のお祝いの法要であり、五十年に一度勤められる記念の法要です。期間中は全国から多くの僧侶と檀信徒の皆さんがお参りに来られ、盛大に勤められました。



左の写真は、大殿にお祀りされている法然上人像に結ばれた五色の糸

（途中から白いさらし）です。白いさらしは、大殿の中央を通って、外へ続き、大殿前の角塔婆に結ばれています。そして、一週間続く法要の最終日、法要の最後に永観堂の御法主猊下が白いさらしから垂れ下がる熨斗を合掌しながら持



たれ、法然上人が浄土宗を開かれた御遺徳を偲び御回向されました。

堂内にいる檀信徒の皆様と僧侶が一緒にお十念を称え、五十年に一度の大法要が無事に満座を迎えました。

今回、八五〇年もの間、法然上人の教えが脈々と受け継がれてきたことを実感することができた慶讃法要でした。



仏教歳時記



地蔵盆じぞうぼん

子供の声の

夜更けまで

柚口 満

八月二十四日は地蔵菩薩の縁日です。京都を中心に近畿地方では盛大に地蔵盆がおこなわれます。

お地蔵さんには新しいよだれ掛けや化粧が施され、子どもたちは数珠回しをしたり、ゲームをして遊びます。

地蔵盆は子どもたちにとって、夏休み最後の楽しいお祭りなのです。



雑記抄 地蔵盆

町内の地蔵盆は常林院の本堂でおこなわれます。普段は本堂の奥に安置している地蔵菩薩像を、地蔵盆の日は内陣の一番前に移動し、子どもたちがお参りしやすいようにします▼子どもたちが本堂に上がり、お地蔵さまに手を合わせている姿は、とても微笑ましいです▼私が子どもの頃の夏休みの記憶には、さぼった宿題に追われていたこと、毎日ラジオ体操に通ったこと、そして地蔵盆の楽しい思い出があります▼今では地蔵盆は一日だけ開催するところが多いで

すが、私が子どもの頃（城陽市に在住）は三日間開催され、色んな催し物が用意されていました。とてものかな時代でした▼「地蔵盆」の意味も知らず、ただ夢中で遊んだだけの地蔵盆でしたが、今思い返すとお地蔵さまに見守られながら、知らず知らずお地蔵さまのご縁が結ばれていたのだと思います▼お地蔵さまは子どもの守り仏です。お寺の中だけではなく、路地裏や道端にもおられ、子どもたちのことをいつもそっと見守っておられます。私たちにあって、とても身近な仏さまです。